# 全米で“反 5G 運動”が急速拡大中、日本は大丈夫か！？
# 脳腫瘍協会トップ「今後 30 年でどんな健康被害がでるか把握不可能」

2019.05.05

5G の導入が目前に迫っている。
2020 年以降、ほぼ全世界で、この次世代通信システムは順次、本格商用化される見通しだ。
日本も例外ではない。

地球全土でこの超高速接続が鋭意推進されている最中、アメリカのある町では、市民が立ち上がり、5G にレッドカードを突きつける騒ぎが起きている。
その機運は今、全米へと拡大しつつあるという。

## ■モラガ市で 5G タワー設置を阻止するための市民集会

カリフォルニア州コントラコスタ郡モラガ市は「モザイク階段」で有名な、人口 1 万 6000 人の港町だ。こののどかな町で今年 4 月 10 日、5G の屋外通信タワー設置を阻止するための市民集会が開かれた。今後、市に対して携帯電話の放射線被ばくから市民を守るための対策を講じるよう求めていくという。

## Health Risk: Citizens Push Back On 5G Towers In Moraga, Calif

POSTED BY: SUSIE STEIMLE　APRIL 12, 2019

「Technocracy News ＆ Trend」の記事より
この町に住むエリー・マークスさんは、11 年前から 5G や携帯電話会社を厳しく非難している。

「FCC（米国連邦通信委員会）は一般市民に嘘をついています。
今後 20～30 年の間に 5G がどんな影響を及ぼすのか、私たち人間が完全に把握することなんて不可能です。
それにもかかわらず、どうしてこんな危険な技術に盲目的に飛びつくのでしょうか。
まったくばかげています」（エリーさん）

実は、エリーさんの夫は、1986 年から携帯電話のヘビーユーザーだったという。
携帯を片時も放さず、常に右耳に押し当てていたそうだ。

エリー・マークスさん　画像は「YouTube」より

Plan For 5G Cellphone Towers Cause Concern In Moraga
https://youtu.be/k9BUrg1xNiY

そして 2008 年、右頭部に脳腫瘍が見つかった。まさに携帯を押し当てていた部位だった。
幸い、ご主人の命は助かったが、これをきっかけにエリーさんは電磁波健康被害に関心を持つようになり、現在は「カリフォルニア脳腫瘍協会」の事務局長として全米で反対運動を展開しているという。

## ■日本では来年にプレサービス開始

今年 4 月に EU 本部が置かれているベルギーの首都ブリュッセルでも、5G 導入の中止が決定した。
5G が電磁波の安全基準を満たしていないためという理由によるもので、これは主要都市としては、世界初となる。

海外では地方自治体レベルで 5G を見送る動きが出ているようだ。

一方、FCC と携帯電話会社は、

「現在までに、すべての主要な研究が 5G に有害な影響はないと結論づけている」

と主張を曲げない。
そして、エリーさんの夫のように「旧世代の無線技術に晒された結果、腫瘍を発症した」というケースとの関連は否定している。
このように両者のせめぎ合いは続くが、5G を求める声とは、すなわち“スピード”を求める声といえよう。

5G はダウンロード速度が 4G の 100 倍。
より安定した接続で、大容量のデータ通信を低コストで実現。
教育や AI、遠隔手術を含めたヘルスケアに至るまで生活を一変させるといわれている。
悪魔のように魅力的だ。

日本ではすでに、通信 4 社に対して周波数帯の割当が決定済みで、2019 年 9 月にはプレサービスが開始する。しかし現在、5G に潜む危険性は不透明なままだ。
本格的な運用が始まってしまえば、こんな議論すら忘れてしまうのだろうか。

参考:「CBS」、「Technocracy News ＆ Trend」、ほか

文 ＝ 佐藤 Kay